



バイオマス発電燃料チップ製造施設を 周南市と災害時における施設の使用締結

周南市と防府市の市境、樺峠に昭和40年から二十六万平方メートルの広大な土地でセメント原料となる粘土採掘を続けてきた和泉産業。新南陽商工会議所からアドバイスを受けて申請した、平成29年度補正ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金を活用して、採掘現場の一部で次世代燃料として注目を集めているバイオマス発電燃料の木質チップを製造する施設を年末迄に稼働する。

和泉産業は、この度開設したバイオマス燃料用チップ製造施設の一部を自然災害時に近隣住民の方の緊急避難場所として活用できる旨の協定を周南市と締結した。

同社のもとと地域の四郎谷地区と土砂崩れなどの災害で道が分断された場合



周南市との災害協定締結式



和泉産業株式会社

代表取締役 和泉 貴信さん

【概要】和泉産業は祖父の兄である和泉秋一氏が代表で、祖父の義太氏、三男の武人氏が立ち上げた和泉組から昭和38年に和泉建設と平和商事に分かれ、粘土資源買取目的にした平和商事が昭和50年に和泉産業に社名を変更し、51年に現事務所の本町に移転した。建設業、採石業と東ソーの協力会社としての事業を柱に展開してきた。今年の12月にバイオマス燃料のチップを製造する施設を稼働する。

に、地域の人は敷地を通過して生活通路にできる取り決めをしてきた。

和泉社長は「地域の協力で理解を頂きながら仕事をさせて頂いて来た。周南市はもちろん全国で大雨豪雨災害で甚大な被害がでており、もしもの際に地域住民の方にとって安心を提供できる役割を担える事がうれしい」と周南市と正式に協定が組めたことを喜んでいる。

和泉社長が代表に就任したのは昨年3月。大学で経営を学び、地元企業で働いていたが、前社長で相談役の父、和泉康博氏と相談し、29歳の時に和泉産業で研修をはじめた。現在でも会社を支えている社員と共に未来に向けて努力を重ねている。

ができ、世界的にもバイオマス発電所がたくさん建設されている。

特に国内では輸入木材による林業の衰退も叫ばれており、木質チップは国内で生産される木材を燃料化できるため、工場だけでなく林業の再興や山林の再生、地方の活性化にとっても重要な役割を担っている。

和泉産業では県内のバイオマス発電所に木質チップの販路を開拓しており、年間一万吨の製造を予定している。「粘土採掘事業のノウハウを活用して新規事業として木質チップ製造を展開し、今後は業務を拡大して行くために、さらに木材の確保をすすめて行きたい」と目を輝かしている。

県内でもバイオマス発電の需要が伸びる可能性を秘めており、和泉社長は「山口県の林業の活性化だけでなく、雇用創出にも貢献していきたい」と話している。